

朝鮮日報 | スポーツ朝鮮 | 月刊朝鮮 | 月刊山 | 少年朝鮮 | 女性朝鮮 | ゲーム朝鮮

次

주간조선 weekly.chosun.com

読者掲示板

政治 | 経済 | 社会 | 国際 | 情報通信・科学 | 文化・レジャー | スポーツ | マンガ | コラム・オピニオン | 邊境朝鮮編

HOME >> 社会

2003.04.10. 1748号

2003. 04. 1:

1748号

日本市民たちの韓国研究 30年 ‘ムクゲの集まり’

日本神戸(神戸)時では 30余年の間韓国、北朝鮮、在日同胞を研究して来た純粋市民団体‘ムクゲの集まり’がある。最近‘ムクゲの集まり’が集まり場所で利用する神戸市出る(灘)で神戸学生青年センターを尋ねた。中年男性会員 8人が明るい顔で迎えてくれた。彼らは普通日本人と違いよく冗談をして和気あいあいした雰囲気を演出しながらも自分たちの活動が初めて韓国に知られるということに緊張する姿も覗きえた。

* 次回
* 去る号

◆ 分野別

の集まりの代表を引き受けているヒだ(飛田雄一・52)さんは“仲間とこの集まりを始める時は 20代初盤の若いだった”と“その後私の 30年歳月はこの集まりとともにいたと言っても過言ではない”と運をテッダ。

が集まりは 1971 年 1 月、当時韓国に対する一般人の関心がほとんどなかった時代に 15人の若者が日本人の立場(立場)で社会的に抑圧される在日韓国人の歴史と

ハングルと一緒に勉強しようという主旨で発足した。それで集まりの名前に殖民地下朝鮮で抵抗運動を象徴した花であるムクゲを入れた。発足当時の会員はヒダシを含めて 3 人だけ残ったし、残り 5人はその後参加した。この集まりはその後研究領域を韓民族の歴史、文化などで拡大した。

しばらく毎週火曜日 ‘研究集まり’

‘ムクゲの集まり’はスタート時から 1995 年 1 月神戸大震災が発生する前まで毎週火曜日研究会を持った。その後月 2 回で減らしたりしたが休んだ事がない。実は大学研究者も 30余年の間月 4 回あるいは 2 回の研究会を抜けないで続くということはたやすい事ではない。

それに会員は皆会社員だ。これらは職場生活の余暇を活用して研究活動をして研究会を通じてその研究の深みを深化させている。これらは‘ムクゲ通信’というニュースレターを通じて自分たちの研究結果を発表して、これを整理して本で出版する。この通信は 26 ページ分量で隔月に発行されて、神戸大震災の時を除き発行を止めなかった。今年 1 月まで 196 号が発行されたし、発行部数は 550 部だ。

1977 年大企業社員である時加入した佐口木(佐佐木道雄・55)さんは“ヨーロッパの場合隣国の文化を勉強することは当たり前なことで受け入れると聞いた”と“隣国である韓国



▲ 30年間韓国を研究して来た日本の市民団体‘ムクゲの集まり’の会員たち

の文化が分かって役で日本が分かるためにこの集まりに加入した”と言う。その後彼は韓国人の生と民俗文化に対して研究を手始め、特に韓国を中心とした東アジアの食べ物文化研究に心血を傾けている。彼は松茸をその代表的例あげた。

“日本人は松茸料理を日本の独特の食べ物文化で思う。14世紀に使われた異色の牧隱集(牧隱集)に時の題目で輪(松茸)が登場するのに、日本でも松茸とする時はこの漢字を使う。17世紀と18世紀に出た日本の辞書は東医宝監に出た‘きのこ中の第一は輪’という技術をそのまま引用している。中国の文献に輪が初めて登場することは1912年で最近の仕事だ。したがって松茸がきのこ中の王だという考えは韓国にその祈願があり、それが日本と中国に伝わったように見える。このように松茸一つだけ見ても韓・中・日間に食べ物文化の相互交流があったということが分かる。”

現場の調査・史料を通じて具体的な研究

佐口木さんはこのように食べ物材料を持って東アジア3国の食べ物文化を比べてその中で3国間文化の接点を研究した本を2冊発刊した。

税関に勤めるデラオカ(寺岡洋・61)さんは専門家も難しいという古代韓日関係詞を研究している。彼は“古代韓日交流史を研究すればどちらが一方的に文化を伝えたよりは交流が密接だったということを学ぶようになる”と“日本の遺跡を探査して見れば日本は韓国から統治と国家運営方式など幅広く文化を受け入れた”と言った。

創立メンバーである狐狸愚癡(堀内禾念・55)さんは植民地時期朝鮮と日本で日本に対抗して広げた朝鮮民衆

の運動社を整理している。1998年出版した‘兵庫(兵庫)現朝鮮人労動運動社’は1905年から1945年まで4個新聞の記事を読んで整理したことで執筆にかかった時間だけ8年だ。

そのまま韓国が良くてこの集まりに加入したという野馬だね(山根俊郎・51)さんは‘ムクゲの集まり’でずっと南北韓大衆歌謡を研究して来た。研究する大衆歌謡は日帝時代から最新歌謡まで多様でこれを総仕舞している。彼は毎日ケーブル放送を通じて韓国の放送を視聴して毎年韓国を訪問して歌謡部屋で最新歌謡を学ぶ。一番好きな歌は形容弱の‘帰って来ます釜山港に’。彼は好きなサヨンのヒット曲‘出会い’に対してこんなに言う。

“‘私たち出会いでは偶然ではない。それは私たちの希望であったの…’この家事で感じることは韓国人のソルジックハムだ。日本人はいくら好きでも言わないのが美德で受け入れられる。しかし韓国人は良いことは良いと率直に表現するきらいがある。その極端的例がこの家事ではないかたい。個人的に韓国人の率直さは自分の心を率直に現わすのであると思っている。”

これらの研究は非常に具体的だ。大学研究者たちが今まで手をつけなかった研究領域を重要史料と現場の調査などを通じて開拓して来た。狐狸愚癡さんは“大学に勤める研究者も私たちの研究を認めてくれる。具体的な研究である位彼らの研究に多くのお手助



▲会員たちが出版したパンフレットと資料集

けになっていると言える。彼らとは相互対立的関係ではなく相互補完的関係にある”と強調する。

こんな位これらは自分の研究に対する自負心もすごい。佐口木さんは“韓国の食べ物文化を研究する専門家はあるが私のように包括的に食べ物文化を持って韓日文化に近付いた人はいない”と言った。デラオカシも“初めには京都(京都)に行って大学教授から地図を受けたがむしろ今は彼らの集まりに招かれて行くほど”と言いながら自信満々とした。

毎月 5万余ウォン会費で運営

‘ムクゲの集まり’は会員ばかりの閉鎖的な集まりではない。大学研究者、在日韓国人史学者はもちろん韓国の研究者とも交流をしている。特に今までこれらの研究会に招請されて講義を一韓国人はコウン・黄が暎・バックウンスン・リヤングフィ・眼病職・バックホングギュシなど有名あいさつたちが多い。

が集まりの運営は外部の助けることなしに徹底的に会費に寄り掛かる。会員は毎月5000円(5万余ウォン)の会費を出す。一般の集まりの普通会費が500~1000円であること比べるとかなり多い方だ。この会費は外部の人の招請講演料、‘ムクゲ通信’発行費、出版補助金などで使われる。

会社員としてこのような活動を長続くと言うのがよほど難しいのではない。視聴に勤めるヤマネシは“この集まりを通じて学んだ韓国語が大きい役に立つ。勤め先に韓国からお客様が来れば私が通訳を専担する”と“この活動と職場仕事がお互いに配置されるのではない”と強調した。デラオカシは“初めには家内がこの活動をよく理解してくれなかつたが一つ一つ研究成果をあげながら今は積極的に支援してくれる”と言った。佐口木さんは最近自分の都合で職場をやめた。しかし彼は“新しいすべきことが私を待っていてこれから的人生が全然心配にならない”と“このの集まり活動が余生をもっと意味あるようしてくれるの”と確信した。

が集まりにも問題のないのではない。会員皆が50歳を過ぎた高令化でこれらの活動を引き継いで行く後輩がいないという点だ。ヒだ代表は“それでも無理やりに後輩養成をしない考え”と言った。彼は“私たちのの集まりが消えても今まで私たちがして来た活動とこれを記録した本が後世に読まれて知られたらそれで満足する”と“会員皆がこの世を去るまでこの活動は持続すること”と力をこめて言った。

京都(日本)=イゾングフィ京都小勢台教授(hwsan@hanmail.net)

2003.04.10. 1748号 = 前の画面 || & TOP